

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com 2010年7月号(No.118)

データベースからの自動組版とクロスメディア展開②

-辞典の自動組版と電子媒体への展開-

辞典、ハンドブック、図書目録、商品カタログなどの制作では、テキストや画像をデータベース化することにより、本文の自動組版や目次・索引の自動生成が可能となり、電子媒体への展開などデータの二次利用も図ることができます。

今回は、「データベースからの自動組版とクロスメディア展開」シリーズの第2回目として、株式会社法研様発行の「医者からもらった薬がわかる本」の自動組版と電子媒体への展開事例の紹介です。

■冊子だけでなくさまざまな電子媒体にも展開する「医者からもらった薬がわかる本」

(1)法研様の「医者からもらった薬がわかる本」(A5判、約1,300ページ)は、約9,100品目の薬の効き目、使い方、副作用などを患者の立場に立って解説し、今年で第27版を重ねているベストセラー本です。この「薬がわかる本」は冊子として発行するだけでなく、電子辞書、CD-ROM、Webサイト、携帯電話などさまざまな電子媒体への展開も図っています。



冊子第27版(2011年度版)

本文ページ

(2)以前はインデザイン(InDesign)で組版し、電子辞書など電子媒体へはそのデータからデータベースソフト・アクセス(Access)にコピー&ペーストして作成・提供されてきました。そのため電子媒体用データ作成に時間がかかり、データ納品後の手直しも大変で、データをデータベースで一元管理し、そこから冊子体の制作と電子媒体へのデータ提供ができないか当社に相談がありました。

■アクセスデータベースからMC-B2による自動組版

(1)当社ではデータベースソフト・アクセスでデータの一元管理を行い、冊子制作は下記のような経過で、モリサワの自動組版システム「MC-B2」による本文の作成と索引の自動生成を行いました。

1)アクセスデータベースの整理

アクセスのデータは一つ一つの薬剤分類項目が「分類テーブル」「製剤名テーブル」「商品名テーブル」の

三つで構成されていまして、その内容及び関連付けの整理を行いました。

2) 組体裁の確定、イレギュラー部分への対応

組版では薬剤分類及びその中の製剤名(商品名)毎の組体裁(マスターページ)を確定し、商品説明の表記違いなどについては、フラグを立てるなどイレギュラー部分への対応も行いました。

3) 索引は自動生成しましたが、イレギュラーな索引表記も多く、かなり手の込んだ作成となりました。

(2) 上記組版システムに変更したことにより、下記のことが可能となりました。

1) 自動組版する前のデータベースでの校正を行なうことにより、薬の形状やメーカー名の表記などの確認が格段にやりやすくなりました。

2) 商品名の並び順を価格順から五十音順に変更するなどの対応も即できるようになりました。

3) 次年度版では組版納期を大幅に短縮することができました。

■アクセス DB からの電子媒体用データの提供

(1) 法研様の「薬がわかる本」は、検索など電子媒体ならではの機能も付加して、下記のような電子媒体への展開も行なっています。

1) シャープなどの電子辞書に搭載

2) CD-ROM 版及びアップルの APP ストアにて iPhone 版を公開

3) NTT ドコモのインターネットサイト「i-mode」に「家庭医薬+薬辞典」として掲載

4) NTT レゾナントのインターネットサイト「goo」に国内最大の薬検索サイトとして掲載(下記ご参照)

<http://health.goo.ne.jp/medicine/index.html>



CD-ROM 版



iPhone 版



電子辞書

(2) 当社は法研様を通じて各電子媒体制作会社と打合せを行い、冊子制作の基となっているアクセスデータをそれぞれに合わせて一部カスタマイズし、データ提供を行なっています。データはデータベースで一元管理されていますので、更新・確認作業も効率的にできるようになりました。以前のようなコピー＆ペーストの必要もありませんので、納期短縮になっています。

【発行】2010年7月21日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-16-7 TEL : 03-3805-7675

URL : <http://www.sanbi.co.jp>